

【特別展示】

画家から漫画家への道へ 平井房人の屏風初公開

八女市出身の平井房人をご存知でしょうか。

読み方は、「ひらいふさんど」と読みます。

八女において、平井に関する資料はわずかです。

本展示では、平井房人の生涯と仕事の輪郭を記述いたしますが、不明な部分も多く、判明している事実を整理していくことにいたします。

1. 平井房人の生涯

平井房人は明治 36（1903）年福岡県八女市岩崎で生まれました。八女中学校（現・福岡県立八女高等学校）を卒業後、洋画家を目指して大正 9（1920）年頃上京します。この間の活動で目立つのは、絵葉書の図案家としての仕事です。大正 12（1923）年関東大震災に遭い、神戸に移り住み、のちに京都に転居、同年末には宝塚少女歌劇団に所属します。雑誌『歌劇』の編集に携わり、舞台の台本、ポスター制作、表紙イラストを手がけます。大正 15（1926）年頃結婚をします。

戦前は歌劇団の仕事が主体でありましたが、この間にも漫画家としての活動を始めます。戦後は雑誌に挿絵や散文を寄稿、宝塚新芸座の責任者を務めるなど活躍しましたが、昭和 35（1960）年 57 歳の若さで京都にて亡くなりました。

2. 画家から漫画家へ

平井は当初、画家を志していましたが、どこで誰に学んだかといったことは明らかではありません。画家としての活動で分かっているのは、大正 12（1923）年、第 8 回来目会に出品しています。

大正 12（1923）年宝塚少女歌劇団『歌劇』の編集部に入りました。『歌劇』とは、宝塚少女歌劇団の機関誌です。平井は、戦前の『歌劇』漫画の確立と発展に最も貢献した立役者と言うべき存在です。

まだ歌劇団に所属していた昭和 13（1938）年、大阪朝日新聞で漫画の連載を始めます。家庭生活の知恵を分かりやすく解説した『思ひつき夫人』という三コマ漫画でした。儉約節約が奨励されていた当時の潮流にも乗って、この漫画は大変な人気を博します。同年より『家庭報國 思ひつき夫人』第 1 集、第 2 集、翌 14 年に第 3 集が単行本として発行されます。



平井房人『家庭報國 思ひつき夫人』
朝日新聞社 昭和 13 年発行

次に平井の功績の中で特に特筆すべきものは、「オサカ（オオサカ）漫画グループ」

（以下、オサカ漫画グループと表記）の結成です。東京の「新漫画派集団」に対抗し、大阪の漫画家集団として発足します。その中心的な人物として平井が位置していました。

3. 平井房人の屏風初公開

八女中・八女高同窓会所蔵の平井房人画の屏風を初公開いたします。制作年、作品名も不明ではありますが、市井の人々をユーモラスに描いた洒落な作品をお楽しみください。



平井房人《不詳》二曲一隻（部分）
八女中・八女高同窓会所蔵

4. 平井房人著作本、口絵、直筆色紙の展示

平井が執筆した雑誌や書籍の展示をいたします。

『宝塚少女歌劇脚本集』第135号 宝塚少女歌劇団 昭和7年発行

『家庭報國 思ひつき夫人』 朝日新聞社 昭和13年発行

『ヒカリノクニ』第1巻第9号 昭和出版株式会社 昭和21年発行 など。

平井房人につけられる肩書きは、漫画家、画家、脚本家、デザイナー、編集者、舞台美術家等、実に様々あります。平井は多才であるがゆえに、個々の仕事の印象が薄くなってしまいうのも事実であります。漫画の分野に絞っても、平井の膨大な仕事の全体を網羅することは容易なことではありません。

しかしながら、本展示では平井の仕事のひとつひとつは、当時の人々の身近にあるものであり、手に取れるもの、それは親しみや喜び、愛された仕事だったということを感じていただければ幸いです。



左：平井房人 右：田崎廣助
八女市所蔵（田崎廣助旧蔵）